

### 福祉体験

先々週、3年生はアイマスク体験を通して福祉学習を行いました。4年生は、3年生の時に学習したアイマスク体験をもとに、車いす体験を通じた福祉学習を進めています。



段差が  
 あります。  
 車イス  
 をあげ  
 ます。



4年生の福祉学習（車いす体験）では、障がいをもつ人々の気持ちに気づき、どのような関わり方をすることがその人の役に立つのかを考えるとともに、2ともに助け合って生きていこうとする心情を養うことをねらって学習を進めました。

### 《子どもたちの振り返りより》

車いすに乗って後ろ向きに段を降りる時、怖かったです。車いすに乗っている人は、こんなに怖い気持ちになるんだなと思いました。また、補助をしてわかったことは、土の道を進む時、車いすを押すのが大変でした。車いすを押している人は、一回一回下を見て確認をしないといけないので大変だなと思いました。狭い道を通る時、コーンに当たりそうで怖かったです。ちょっとした段差でも車いすを上げないといけないんだなと思いました。  
 (K児)

私たちは体育館で車いすを体験したけれど、本当の道は、もっと大変だなと思いました。本当の道は坂道もあるので、坂道では（車いすの補助は）どうやるのかなと思いました。補助は大変でしたが、まだ友達だから楽にできたと思います。もし知らない人だったら、助けられても緊張すると思いました。(W児)

車いすに乗って斜めになるところが怖かったです。車いすの補助は、操作がとても難しく、自分が思っている所に行くのが難しかったです。

私は、車いす体験をして、けがをしないかとても心配でした。本当の道はもっともつとガタガタで車や人もいるので、もっともつと気をつけて車いすを押したいと思いました。

車いすに乗っている時は楽だと思いました。でも少し怖いところもありました。車いすに乗っても、補助の人が話しかけてくれなかったり、初めて会う人だったりすると不安かなと思いました。(M児)

## 《車いす体験の授業より》

子どもたちは、①ジグザグ道②土の道③段差を下りる④段差を上がる⑤ガタガタ道⑥せまい道をそれぞれ体験しました。補助する側にも補助される側にもなって体験を行いました。

車いす体験の最後に、子どもたちに、次のような話をしました。

一番大切なことは、相手が何を欲しているかということです。  
補助する時は、声をかけながらサポートすることが大事です。

4年生のみなさん。現時点での生活は、車いすを使わなくても生活ができています。しかし、いつ車いすが必要になるかはわかりません。今後の生活の中で、大きなけがや病気で車いすを必要とすることが出てくるかもしれません。年をとっていく中で車いすが必要になることが出てくるかもしれません。今日の学習を他人事に思わず、補助された時の気持ちや補助した時のポイントをしっかり覚えておいてください。

以前、車いすで生活をしている方から次のような話を聞いたことがありました。

映画を観たくて車いすで映画館の前まで行かれたそうです。しかし、そこには3cmの段差があり、どうしてもその段差を車いすで上がることができなかったそうです。その人は、映画館に入ることができず、映画を観ることを諦めて帰宅されたそうです。このエピソードにはいろいろな課題が隠れているように思います。

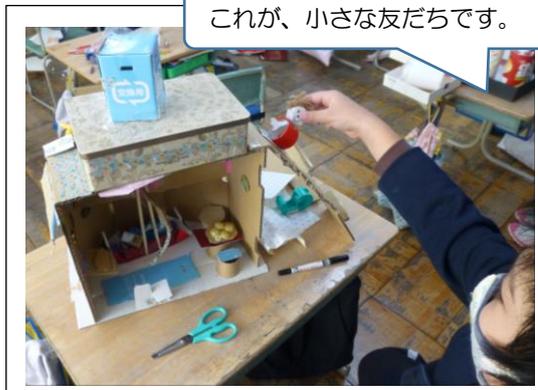
現在は、バリアフリー等いろいろな設備が整ってきていますが、設備面や心理面等、誰もが気持ちよく過ごせる社会がつかれるよう、しっかり学んでいきましょう。

大切なことは、補助をする際には、自分サイドではなく、相手の思いを大切にサポートしましょう。そして、声かけがとても大切になります。今日の学習を覚えておいてください。

## 子どもたち学習より

### 『友だちハウス』（2年生：図画工作）

2年生の図画工作の学習です。2年生の子どもたちは、『友だちハウス』という題材で、創作活動を行っています。各自が、小さな友だちを設定し、その小さな友だちが過ごすハウスを発想豊かにつくっています。



子どもたちは、創作活動に夢中です。授業終了のチャイムが鳴っても、手をとめることができませんでした。子どもたちは、自主的にお互いの作品について交流もしていました。クラス中が創作意欲に満ち溢れていました。笑顔いっぱいの子供たちでした。